

学校教育目標		豊かな心をもち、意欲的に学び、たくましく生きる児童の育成を図る		重点目標	支え合い、学び合い、高め合いのできる子どもの育成					
		評 価 計 画			自 己 評 価		学校関係者評価		改 善 計 画	
重 点 目 標	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結 果（成果○と課題△）		評価	コメント	次年度における改善策（案）	
	○かしこい子 ・自ら考え判断し、共に学べる子ども 【自ら学ぶ力の育成】	①観点に沿って話し合う場面や、友達と力を合わせて課題に取り組む場면을授業に取り入れる。	①児童評価：「授業では、問題を解決するために考えを伝え合い、何を話し合うか決めて話し合っている」 3P以上（4段階評価）→90%以上	3	○授業づくりシートの作成を日常的に行う教師が増え、学習過程に「めあて」「対話」「ふりかえり」を位置付けた授業の実践が増加した。 ○ペアやグループでの対話のさせ方について研修を行ったことで、児童の学び合い、高め合う姿が増えてきた。 △家庭学習への取組は、個人差があり90%には至っていない。よい取組を紹介し、家庭への啓発を引き続き行っていく。	A	・学校の評価は適切である。 ・若年の先生方が増えている中で授業づくりシートを活用して、張りのある授業を標準化することはとても大切だと思う。今後もこの取組が定着するよう進めて欲しい。 ・先生方の取組や工夫のより成果が見られている。 ・家庭学習は各家庭の状況次第。	・授業シートの活用を継続し、子ども達が学ぶ必然性を感じる導入の工夫や子ども達が主体的に話し合い、考えを深められるような「学び合い」のある授業を展開する。 ・授業や家庭学習でICT機器を活用し個別最適な学びの推進を図る。 ・よい取組を学級通信で家庭に発信したり、校内に掲示して児童に紹介したりして、家庭学習の推進を図る。		
		②自分の考えと友達の考えを比較したり関連付けたりして話し合う交流の場면을授業に取り入れる。	②児童評価：「授業の話し合いの中で、自分の考えと友達の考えの同じところや違うところを考えながら聞いている。」 3P以上（4段階評価）→90%以上	3		A				
		③自己の課題に応じて選択決定できる家庭学習をすすめることができるように、白川小版家庭学習の手引きを配布する。	③児童評価：「宿題の他に、家庭学習に取り組んでいる。」 3P以上（4段階評価）→90%以上	2		A				
に 関 す る	○よい子 ・友達を大切にし、支え合い、差別しない子ども 【豊かな心の育成】	④良さを認め合う活動を月に1度、継続的に実施する。（メルシーアーチ、ありがとうの日等）	④児童評価：「友達の良さを見つけ伝えることができる。」 3P以上（4段階評価）→90%以上	4	○サンキューボックスの取組でよさ見つけて手紙に書いてボックスに入れる児童が増えた。 ○児童会の呼びかけにより、毎週水曜日に挨拶運動が継続されている。また、11月12月の「あいさつ名人」の取組で、児童の意識が高まった。 ○毎学期のめあてを明確にもたせ、月ごとに振り返りを行ったことで、めあて達成への意識が高まった。 ○学級遊びや縦割り遊びを実施したことで、積極的に友達と関わろうとする姿が増えた。	A	・学校の評価は適切である。 ・他人の良さを見つけ伝えることができすばらしい。挨拶もきちんとできる子どもが多くなった。 ・3Sで「挨拶名人」を紹介する取組は、頑張りを周囲に宣伝し、本人の意欲の向上につながるのとてもよい取組である。今後も、子どもたちの頑張りを皆で認め合う活動を進めて欲しい。 ・人権感覚を育てるのは大事。 ・挨拶は地域ではできているかどうか。学校外でもできるように。	・子ども達同士がよりよく関わりするためのスキルを学ぶための時間を学活等で取り入れる。 ・まずは教師自身が気持ちのよい挨拶を実践し手本を示す。「挨拶名人」の取組を継続し、外的動機付けを行いながら、年間通して指導称賛を続け内的動機付けも図る。 ・次年度は、白川SSH（静かな廊下歩行・掃除・履き物揃え）の日常指導を徹底する。		
		⑤児童が目標を持って3S（進んで・立ち止まって・笑顔で）の挨拶ができるよう教師自ら挨拶し、指導する。	⑤児童評価：「進んで・笑顔で・立ち止まてのあいさつを誰にでもしている。」 3P以上（4段階評価）→90%以上	3		A				
		⑥毎学期のめあてやキャリアパスポートを活用し、できたことやがんばったことを認めて褒め、児童に自信や意欲をもたせる教育活動を展開する。	⑥児童評価：「学習面や生活面、健康面で、自分のめあてに向かってがんばっている。」 3P以上（4段階評価）→90%以上	4		A				
		⑦集団の中での友達との関わりを深め、思いやりの気持ちを育てるために、学級遊びや縦割り遊びを実施する。	⑦児童評価：「人によって 態度を変えずに、思いやりのある声かけができる」 3P以上（4段階評価）→90%以上	3		A				
価	○つよい子 ・心も体も健康でたくましい子ども 【健やかな体の育成】	⑧毎朝の大牟田っ子ストレッチを行い、体を動かすことの心地よさを感じさせたり外遊びを奨励したりする。	⑧児童評価：「毎朝の大牟田っ子ストレッチをきちんと行い、体を動かす心地よさを感じている」 3P以上（4段階評価）→95%以上	2	△教師も一緒に取り組むよう確認をしたが、児童の登校時間に差があり、徹底が図れなかった。 △早寝の項目が下学年は70%、上学年では、50～60%であった。夜遅くまでのゲームやSNSの使用が生活習慣の乱れに繋がっている。 ○学習カードを使うことで、めあてを持って活動できる児童が増えた。	A	・学校の評価は適切である。 ・毎日遅く登校する子どもは決まっていて家庭での生活習慣を心配する。 ・生活習慣の確立は保護者との連携が必要だが、難しい家庭もあると思う。 ・筋力、柔軟性の数値が低い。休み時間に筋力、柔軟性を高める遊びを取り入れてはどうか。	・体力アップに向けて授業はじめての準備運動や休み時間の遊びの中に筋力、柔軟性を高める運動を取り入れる。 ・ゲームやSNSの使用については、継続して児童と保護者に啓発を行っていく。高学年で部講師を招い情報モラル学習や規範学習等を実施し、低・中学年でも情報モラル学習を確実に実施する。		
		⑨家庭学習強調週間で家庭との連携を強化し、睡眠・食を重視した生活習慣の確立に向けた啓発をする。（特に早寝）	⑨児童評価：「家庭学習頑張りカード」決めた時刻までに早寝する 2P以上(3段階評価)→90%以上	2		A				
		⑩運動量を確保(60%以上)し、めあてをもって学習する授業を実践する。	⑩学習カード授業振り返り「活動をペアで見合い、次の時間のめあてを決める」 児童評価3P以上(3段階評価)→90%以上	3		A				
い じ め 防 止	○未然防止と早期発見・早期対応、情報の共有化	ア学校生活アンケートやいじめチェックリスト、保護者へのアンケート等を活用して、いじめの早期発見に努める。	ア学校生活アンケートやいじめチェックリスト等の後の教育相談の実施と結果の共有 実施率100%	4	○月1回のいじめアンケート、チェックリストや児童理解会議で児童の現状把握と、配慮の必要な児童についての全職員での情報共有ができた。 ○いじめの早期発見や未然防止についてSSW、SCから学ぶことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・道徳や学活を活用して様々な視点でいじめ差別のケースを考えさせ未然防止に努めて欲しい。 ・本人がいじめと認識できていない児童がいらないか見取りを。	・担任は管理職への「報告・連絡・相談」と記録を確実に行之い、児童保護者への迅速な対応に努める。 ・担任、養護教諭、管理職の連携を密にして、情報を全職員で共有し、未然防止と早期発見に努める。		
		イ毎月の児童理解全体会や学期に1回のいじめ防止対策委員会を実施し、情報の共有を図る。	イ毎月の児童理解会議(月1回)といじめ防止対策委員会(学期1回)の確実な実施 実施率100%	4		A				
不 登 校 防 止	○職員間と保護者、関係機関との連携、情報の共有化	ウ毎朝の遅刻・欠席状況を確認・報告し、個に応じて複数の職員で対応する。	ウ欠席児童への電話連絡・家庭訪問 実施率100%	4	○毎朝出席確認を確実に行之い、管理職、主幹教諭、養護教諭で児童の健康状態の確認を欠かさず実施した。 ○SC・SSW・巡回指導員と保護者・児童とを計画的につなぎ、安心して登校できる体制作りに努めた。	A	・学校の評価は適切である。 ・職員間の連携がよくとれている。 ・「わくわくルーム」の取組がよい。 ・不登校に関しては、国県市が一体となった対応が必要だと思う	・教室に入れない児童の居場所（わくわくルーム）の取組を続け、対応する職員を計画的に配置する。 ・不登校の児童と学校(先生、友達)との関わりを切らないよう家庭訪問や放課後登校等の支援を行う。		
		エ朝の健康観察を丁寧に行之い、登校時様子や登校意欲等の実態把握に努める。	エ11～30日欠席児童数 前年比マイナス30%	3		A				
		オSC・SSW・巡回指導担当教員と連携し、本人や保護者との面談を設定・実施する。	オ SC・SSW・巡回指導員との事前の打ち合わせと事後の情報共有 実施率100%	4		A				
働 き 方 改 革	○運営体制と業務の改善	カ学校閉庁時刻（20時）での退校、及び学校閉庁日の設定を行う。	カ20時に退校した職員 実施率 80%	2	△20時以降までの退校を呼びかけているが、目標達成には至っていない。 ○チームで進める部会が増えてきて意識の改善は見られた。 ○会議では、審議内容のみを取り上げ、ICT活用し設定時間内で終えた。	A	・学校の評価は適切である。 ・働き方改革を進めつつも、職場環境の改善、充実を願う。 ・本校に限った問題ではなく国県市PTAが一体となった対応が必要 ・業務内容が多くて大変だと思う。	・毎週水曜日の効果的な運用を行い働き方改革を進める。 ・一部教師に校務の負担が偏らないよう分担し、チームで推進する ・主幹教諭が会議内容を早めに周知し、主務者に事前に提案させる。		
		キ校務分掌の機能化を図る（担当分掌の確実な実施とチームでの推進）。	キ担当の校務分掌の確実な提案とチームでの実施 実施率 85%	2		A				
		ク会議と連絡会（協議事項と連絡事項）を振り分け、ICTの活用で効率化を図る。	クICT活用を活用した、事前の計画的提案 実施率 90%	3		A				

◇ 評価について

・【自 己 評 価】

4：目標達成（90%以上）

3：ほぼ達成（70%～90%）

2：もう少し（60%～70%）

1：できていない（60%未満）

・【学校関係者評価】

A：自己評価は適切である

B：自己評価は上方修正すべきである

C：自己評価は下方修正すべきである

令和 5 年度 学校評価報告書

大牟田市立白川小学校（NO2）

評 価 計 画				自 己 評 価		学校関係者評価		改 善 計 画
	領 域	評価の観点	評価指標①取組指標または②成果指標	評 価	結 果（成果○と課題△）	評 価	コメン ト	次年度における改善策（案）
	総	教育課程 学習指導	年間指導計画のPDCAサイクルの確立 効果的な指導方法の工夫	4 4	○週案の確実な提出がなされ、時数や内容を確認し、教室訪問で確認できた。 ○少人数指導や配慮が必要な児童への支援を行えたことで、指導が充実した。	A A	・自己評価は適切である。 ・担任外も指導ができていてよい。 ・配慮が必要な児童への支援も引き続き充実させて欲しい。	・引き続き、週計画による量的、質的管理を確実に行う。 ・担任外の教職員の効果的な配置を計画し、よりきめ細やかな指導を行う。
括	進路指導	夢や希望、憧れる自己イメージの獲得と自己実現 望ましい勤労感等の育成	各児童の学期のめあての達成に向けた取組（PDCA） やキャリアパスポートの活用 体験活動（勤労生産奉仕活動、ボランティア体験、委員会活動、学校行事の係活動）	3 3	○めあて達成の意識づけを行ったり、体験活動の目的を明らかに示したりして、児童の意欲向上が図られた。 △教師によって差が見られた。	A A	・自己評価は適切である。 ・達成のために準備が必要だと思う。 ・体験活動を通して、将来の夢や希望を描けるようにして欲しい。	・体験活動（勤労生産奉仕活動、ボランティア体験、委員会活動、学校行事の係活動）を通して、将来の夢や希望を描けるようにする。
		児童理解の充実	児童に関する情報の共有とアンケート実施後の教育相談の確実な実施	4	○児童の様子について、報告・連絡・相談が確実になされ、情報共有できた。	A	・自己評価は適切である。 ・有言実行的な活動がなされている。これから頑張るって欲しい。	・児童と保護者への定期的なアンケートの実施を継続し、よりきめ細やかに対応し、いじめの未然防止に努める。
	生徒指導	積極的な生徒指導の推進	自己指導力育成のため3つの留意点（自己存在感・共感的人間性・記憶）を意識した学級経営・授業づくり	3	○学級の支持的風土作りに努め、一人一人を大切にしたい指導を行った。	A	・不登校児童に対しては保護者の考えや関係機関による見立てをもとに支援体制を作って欲しい。	・COCOLOプランや生徒指導提要进行を職員に周知し、「誰一人取り残さない」発達支持的生徒指導を行う。
		不登校対応の充実	不登校傾向児童、不登校児童に対する組織的な支援体制づくり	4	○電話連絡や家庭訪問を実施、安心して登校できる環境を作り対応した。	A		
	保健管理	健康指導の充実	保健学習、保健指導の充実 薬物乱用防止教室、性教育等の促進	4	○発達段階に応じた、保健学習を計画的に実施してきた。	A	・自己評価は適切である。	・コロナ禍の時のように、消毒液の配布などはなくなったが、テーブルの消毒や手洗い・手指の消毒、清潔な身支度など給食時の衛生管理に努める。
		学校給食の管理と食育の推進	毎日の検食、各学級での給食準備のチェックの実施 食育に関する年間指導計画に基づく指導の実施	4	○給食チェックリストを使い、衛生面に配慮した給食準備ができた。	A	・まだ、インフルエンザやコロナ等での休みがあり大変だと思う。 ・給食の量が足りているか心配している。食品ロス余るのもよくないが足りないのは、より困る。	・給食指導や学活の時間に、食育の観点に沿った指導を行う。
		アレルギー対応の取り組み	アレルギー会議の実施（個別の対応についての把握と確認、アレルギー食の確実な対応）	4	○保護者・担任・管理職・栄養士・給食調理員で献立の確認を行った。	A		
	安全管理	安全教育の実施	避難訓練、不審者対応教育、防犯教育、交通教室等の実施	3	○緊急時の引き渡しについて、児童の訓練と保護者への説明を実施できた。	A	・自己評価は適切である。 ・想定できる事項については早めに対応すればよいと思う。	・緊急時の引き渡しの方法について見直し、よりスムーズな引き渡しができるよう改善を図る。
		教育活動中の安全対策	毎月初めの安全点検実施 危機管理マニュアルの確認、見直し、改善	4	○安全点検を確実に実施し、異常個所は早急に再点検、修繕依頼等を行った。	A	・再編会議で道路等の危険箇所の改善要望しているが引き続き登下校の安全対策をお願いしたい。	・地域・保護者・見守り隊と通学路の危険箇所についての情報共有を図り、児童への指導を徹底する。
		登校・下校児の安全対策	通学路の点検、交通安全教室、集団下校指導の実施 見守り隊・PTAとの連携	4	○地域・保護者・見守り隊と通学路の安全について情報交換を行った。	A		
的	特別支援教育	特別支援教育推進体制	合理的配慮が必要な児童の把握とSC、SSW、巡回指導員との連携、個別の支援計画の作成と実施	4	○必要に応じてSC、SSW、巡回指導員と児童を繋ぎ、計画的な支援を行った。	A	・自己評価は適切である。 ・十分に組み込まれている。	・配慮が必要な児童が増加している。全職員が情報を共有し支援にあたる。
		特別支援教育に関する研修	全校授業研の実施（個に応じた指導） SCやSSW等と連携した研修の充実	4	○特別支援学級での授業公開を行ったり、SC、SSWから支援の方法を学んだ。	A	・個別の支援計画が実施されていてよい。	・外部講師を招き、特別支援教育に関する研修を行い、見識を深める。
	組織運営	校務分掌の機能化	各主任のリーダーシップの発揮と連絡・調整による全職員の共通理解と共通実践	4	○各主任を中心に計画に沿って取り組んだ。	A	・自己評価は適切である。 ・十分に組み込まれている	・県の重点課題研究を受け、組織改革を行っている。次年度も、チームでの運営を更に推進し、職員の参画意識の向上を図る。
		組織マネジメントの確立	二部会や研究推進委員会等、チームによる組織運営の推進	4	○チームで運営する体制をとったことで、職員の参画意識が向上した。	A	・組織作りが円滑に推進されているようである。	
	研 修	主題研の積極的な推進	研究授業年間 1 回以上を全員実施 授業チェックリストによる授業改善	4	○全ての担任が授業づくりシートを作成し、研究授業に取り組んだ。	A	・自己評価は適切である。 ・研究授業が積極的に行われてい先輩、ベテランの先生に相談しやすい環境（雰囲気）があるか。	・県の重点課題を受け、重点目標と主題研修と学力向上プランを一本につないだ研究の推進を図る。教員同士の学び合いで授業力、経営力を伸ばす。
		キャリアステージと校務分掌に応じた研修の推進	各職員の目標に応じた専門研修等の受講、研究発表会等への参加奨励	3	○初任者研修では、計画に基づいて、校務分掌に応じて全職員が関わった。	A		
	教育目標 学校評価	各教育活動の達成状況	学期ごとの教育活動評価の実施と改善のための具体的方策（PDCAサイクルを活用した見直し）	3	○学期末に児童・教師による教育評価を実施し改善策について話し合った。	A	・自己評価は適切である。 ・重点目標の考え方、活動の取組をみんなで話し合い進めている。	・重点目標達成マスタープランを作成し誰が、いつまでに、何をするのかを明らかにして、全職員が共通理解、共通実践を行う。
		重点目標の達成状況	重点目標達成のためのマスタープラン・個人プランの作成とプランに基づく実践・振り返り	4	○プランを作成したことで、取組が明確になり、重点目標達成に近づいた。	A	・十分に組み込まれている。	
	情報提供	各種通信・HP等による積極的な情報発信	学校だより、Mボード、学年・学校だより、保健・給食・図書館だよりの定期的な発行	4	○学校の教育活動について、Mボードで毎日発信した。	A	・自己評価は適切である。 ・地域と繋がっていくことは大切。	・次年度も、学校での様子を、お便りやMボードなどで、積極的に発信する。
		各種会合等での情報提供・啓発	学級懇談会、PTA会合、校区まちづくり協議会、社会福祉協議会等 関係機関との連携・協力体制	3	○保護者や地域へ学校の情報を伝え、可能な限り地域行事に参加した。	A	・白川小は地域と連携しよい取組をたくさんしているので、今後も積極的に情報発信して欲しい。	・各種関係機関とも連携、協力体制をとり、情報の共有を積極的に図る。
価	保護者・地域との連携	保護者との連携の状況	PTA役員会・実行理事会、PTA総会、家庭訪問、個人懇談、毎学期のアンケート等の実施	4	○定期的にPTA役員会・実行理事会を開催し、保護者からの協力を得た。	A	・自己評価は適切である。 ・学校側と保護者側がより協力されていると思う。	・コロナ禍以前のジュニア民生委員・児童委員の校外での活動が戻ってきたので、過去の資料を参考にして、活動計画を立て実施する。
		地域住民との連携の状況	地域住民との連携（ESD「もの・ひと・こと」）やまち協、民児協との連携	4	○ジュニア民生委員・児童委員の高齢者訪問を行うことができた。	A		
	教育環境整備	学校施設の環境整備	教室、校舎内外の施設の点検・整備	4	○毎月、教職員とスクールサポートスタッフによる点検を実施できた。	A	・自己評価は適切である。 ・十分取り組まれている。	・毎月の点検を確実に実施し、安全な環境作りを継続する。
		教育備品の整備状況	教科用備品、図書、放送機器等の備品整理状況の確認・点検	4	○事務職員と連携し、備品の活用状況を調査し、整理を行った。	A		・校内の環境整備を行い、児童が落ち着いて過ごせる環境美化に努める。

◇ 評価について

・【自 己 評 価】	4：目標達成（90％以上）	3：ほぼ達成（70％～90％）	2：もう少し（60％～70％）	1：できていない（60％未満）
・【学校関係者評価】	A：自己評価は適切である	B：自己評価は上方修正すべきである	C：自己評価は下方修正すべきである	